

三宅島の現状（その58）

平成15年7月10日
三宅村災害対策本部

【気象及び火山活動状況】

この期間は、梅雨前線が伊豆諸島から関東地方の間を南北に移動したため、曇りの日が多く、期間の中頃には前線上に低気圧が発生して4日に19ミリから25ミリの日降水量を観測しました。期間の後半には梅雨前線が三宅島付近に停滞することがありましたが、前線の活動は弱く、晴天もあり、5日には日最高気温が28.3℃になりました。

火山の活動状況は、8日にやや振幅の大きな低周波地震が観測されましたが、体を感じる地震は観測されませんでした。噴煙の状況は雲のため観測できない日が多くありましたが、3日には白色の噴煙が火口上800mまで上がっているのが観測されました。

火山ガス（SO₂）の放出量調査は、9日に警視庁の協力により、約5,400トン/日から7,300トン/日を観測しました。島内のガス濃度（SO₂）は、26日逢の浜温泉で7.4ppm、30日三池消防器具置場で7.4ppm、8日三宅島空港で5.1ppmを観測しました（東京都環境局観測）

【定期船】

白い船体が水平線から波をかき分けて向かって来る雄姿に誰もが頼もしく感じると同時にいろいろな思いをめぐらしながら定期船が入港してくるのを見守っています。

唯一島を結ぶ交通手段である定期船は、島で働く作業員、防災関係者にとっては東京と三宅島を結ぶ連絡船であると同時に、都会の匂いと島の匂いを交互に乗せてくれる楽しみの船でもあります。定期船が入港するさん橋には作業を終え休暇で都内にいる家族の元へ帰る人、そして休暇を終え沢山の荷物を抱え船から降りてくる人、さん橋はまさに島の社交場のような賑わいを見せてくれます。

週3回の定期船の寄港は島で作業する人にとって一番の楽しみであり人だけでなく生活物資や生鮮食料品も入荷する日です。島内には、防災関係者に向けた臨時の売店が2箇所営業され、いろいろな商品が所狭しと陳列されており、島で働く人々の胃袋を十分に満たしてくれています。島も小暑（7月7日）を過ぎて、いよいよ本格的な暑さがやってきます。滞在、日帰り帰宅事業にいて来島される島民の皆さんは無理をせず健康には十分注意して作業を行っていただきたいと思ひます。

【滞在及び日帰り帰宅事業の実施状況】

（1）滞在型帰宅事業の実績

6月28日から31日	坪田地区	参加者	154名
7月5日から8日	伊豆伊ヶ谷地区	参加者	120名

（2）日帰り帰宅事業の実績

6月26日	神着地区	参加者	49名
7月2日	阿古地区	参加者	87名
7月10日	坪田地区	参加者	93名

（問合せ先：三宅村災害対策本部 電話 04994-6-1549）

平成15年7月15日
東京都三宅村

『火山ガスと健康影響に関する Q&A』の送付について

三宅村では、「三宅島火山ガスに関する検討会報告」説明会や「火山ガスと健康影響」説明会を実施しています。これは現在の火山ガスの状況や火山ガス特性の知識を得ることで、帰島後の生活の注意点を理解することを目的としたものです。説明会は都内各所で今後も実施していきますが、都合により参加できない方、又説明会に参加された方でもよく分からなかった方のために、今回より「火山ガスと健康影響に関する Q&A」をお送り致します。

火山ガスに関心をもち注意を払うことは、三宅島で生活を送る上で避けては通れないことです。普段の心構えなどについて、島民一人一人が共通の知識を身に付けるために必要な情報を提供していきますので、是非ご活用下さい。

なお、この「火山ガスと健康影響に関する Q&A」についてご質問等ありましたら、下記の連絡先までお問合せ下さい。

記

1. 連絡先 〒163-8001
東京都新宿区西新宿2-8-1 東京都庁内
三宅村新宿総合事務所
災害復興室復興計画担当課計画係
電話03-5320-7826
FAX03-5388-1603
E-mail:miyake_c@miyakemura.com

*「火山ガスと健康影響に関する Q&A」は、帰島時に非常に参考になるので綴っておいて、定期的に確認するようご利用下さい。

火山ガスと健康影響に関する Q&A

Q 火山ガスってなあに？

A 現在、雄山の火口からガスが噴出しています。このガスを火山ガスといいますが、噴出された火山ガスはふもとまで流れてきます。

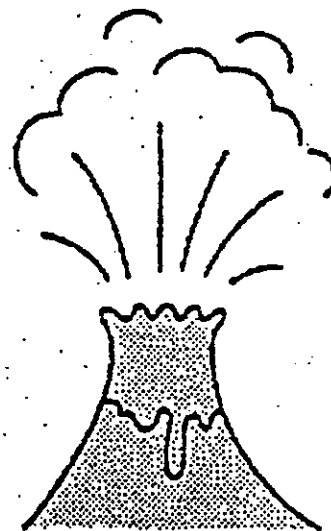
主な成分には、二酸化硫黄、水蒸気、硫酸ミスト、硫化水素、二酸化炭素、浮遊粒子状物質があります。

これらの成分の内、三宅島で危険なのは二酸化硫黄です。

その他の成分は、今のところ濃度が低いので、人体への影響は極めて低いと考えられています。

二酸化硫黄は無色で刺激臭があり、眼や咽喉を刺激します。

高濃度の二酸化硫黄を吸い込むと呼吸困難になることがあります。また、ぜんそく患者の場合、低濃度でも発作を誘発し、症状が悪化することもあるので注意が必要です。



Q 火山ガスが出たらどうすればいいの？

A 火山ガスが出た時は、二つのことに気をつけなくてはなりません。一つめは、ガスマスクをつけることです。ガスマスクをつければ、火山ガスを吸うことはなく、ぜんそくなどの発作を誘発することもあります。

二つめは、避難場所とそこに行くまでの道のりを覚えることです。火山ガスの濃度が濃い場合、ガスマスクの効果が早くなくなってしまう可能性があります。これを防ぐためには、今いる所から避難をしなくてはなりません。一番近い避難場所はどこにあるのか、どうすればそこまでたどりつけるかを把握しておく必要があるのです。



平成15年 7月10日

平成15年7月10日発行
会報第84号

会員数 415名
男性 170名
女性 245名

シルバー



みやげ

編集・発行

社団法人三宅村シルバー人材センター
東京都千代田区飯田橋3-10-3
シニアワーク東京2階
TEL; 03-3239-4343
FAX; 03-3512-3477

安全はシルバー人々の命

安全就業強化月間(七月)

全国シルバー人材センター事業協会は、七月を安全就業強化月間と定め、会員の就業中、就業途上で事故防止のため安全意識の高揚を図る全国キャンペーンを実施しています。これを受けて振興財団では安全就業推進大会、安全就業推進連絡拡大会議を開催するなど会員の安全就業の徹底に力を入れています。

七月八日開催された安全就業推進大会には、当センターから安全就業推進員の宮下主事をはじめ各現場のリーダー等五人が参加しました。参加者は、沖山照次(都立大)、村上久幸(産技研)、池田カツエ(三宅高校)、鳥沢紀久(光が丘)の皆さん。今回は泊帰島などの関係で保健科学大からの参加者はなかったが、この大会での経験を現場では是非生かしてほしいものです。

七月八日開催された安全就業推進大会には、当センターから安全就業推進員の宮下主事をはじめ各現場のリーダー等五人が参加しました。参加者は、沖山照次(都立大)、村上久幸(産技研)、池田カツエ(三宅高校)、鳥沢紀久(光が丘)の皆さん。今回は泊帰島などの関係で保健科学大からの参加者はなかったが、この大会での経験を現場では是非生かしてほしいものです。

七月八日開催された安全就業推進大会には、当センターから安全就業推進員の宮下主事をはじめ各現場のリーダー等五人が参加しました。参加者は、沖山照次(都立大)、村上久幸(産技研)、池田カツエ(三宅高校)、鳥沢紀久(光が丘)の皆さん。今回は泊帰島などの関係で保健科学大からの参加者はなかったが、この大会での経験を現場では是非生かしてほしいものです。

内、当センターでは特に次の項目の徹底を図り就業中、就業途上で「事故ゼロ」を目指します。

- 一、就業場所の安全確認
- ① 足元、手元、周囲の安全確認
- ② 危険な場所や物には近寄らない。
- 二、段差、障害物等による転倒防止
- 三、就業途上で事故防止
- ① 段差のある歩道での転倒事故防止
- ② 自転車バイク等での通勤禁止
- ③ 必ず横断歩道を渡りましょう
- ④ 就業途上の道順を守りましょう
- 四、剪定作業中の事故防止
- ① 安全帽、用具は必ず着用しましょう
- ② 必ず二人以上で就業しましょう
- 五、会員の健康管理の徹底

◎階段の踏みはずしによる転倒事故

階段の昇り降りには十分注意しましょう!!



健康相談会開催

安全就業重点項目の一つでもある会員の健康管理を支援するため、島しょ保健所三宅島出張所の看護師さんの協力を得て、各現場を巡回して健康相談会を行います。

保健所では、多忙な日程をやりくりして皆さんの健康チェックのため出張してくれまます。日程は、左記のとおりとなりますので、全員の参加をお待ちしております。

記

- ★都立大 七月、十月、一月
- ★三宅高 九月、十一月、二月
- ★保科大 九月
- ★産技研 八月
- ★十一月、二月
- ★光が丘公園 九月、十二月
- ★三月

尚、日時の決定は実施する日の数日前になりますので、決まり次第リッダーに連絡します。

安全就業講習会

当センターでは、安全就業強化月間の一環として各現場に担当職員が出向いて「安全就業のためのチェックポイント」を中心に講習会を行う予定です。これから夏本番を迎えますが

三宅高校と光が丘公園で

リスクコミュニケーション実施

三宅村は、四月から都内各地で島民とのリスクコミュニケーションの機会を捉えて「火山ガスと健康との関係」、「ガス濃度が上昇した時の行動」等について詳しく説明し、帰島に向けてどうしても欠かせない条件(住民のリスクの受け入れ)の整備に全力を上げています。その一環としてこの六月、当センターの就業現場

伝言板

配分金はあなたの口座に振り込みます

- 八月十一日(月)
- 九月一日(水)
- 十月一日(金)

炎天下の仕事で疲労もたまりやすく、注意も散漫になりがちです。安全就業のチェックポイントをもう一度おさらいして、事故のない楽しい職場にしたいものです。

日程は左記のとおりです。

記

- ★都立大 七月二十四日(木)
- ★三宅高 七月十五日(火)
- ★光が丘 七月十六日(水)
- ★産技研 七月十一日(金)
- ★保科大 七月十七日(木)

平成15年 7月10日



広場



投稿歓迎

皆様のご意見やお便りをお待ちしています。
詩歌やエッセイなど大歓迎、ご投稿下さい。

三宅村シルバ－ ホームページ・アドレス
URL <http://www9.ocn.ne.jp/~msjc3050>
E-mail miyakesc@tokyosilver.or.jp

五ヶ所を巡回してリスクコミュニケーションを実施する予定でしたが、雨のため三ヶ所は延期、三宅高校と光が丘公園で行われ、三宅高校のりーダー・池田カツエさんは「とても分かりやすかった。先生の説明の後、いろいろと質問も出て和やかな話し合いができて、本当によかった」と話していました。

六月十八日は光が丘公園。三宅高校を担当した慶応義塾大学の菊池先生と杉本村民課長が訪れ、プロジェクトを使いながら先生のユーモアを交えた話に笑い引き込まれ、会員も真剣な眼差しで聞き入っていました。

高齢者にとってはなじみの薄い横文字「リスクコミュニケーション」の意味と必要性をはじめ「二酸化硫黄の特性」、「ガス濃度レベルと安全行動」など島で生活するために知っておかなければならない事柄を、みくみく話してくれました。

以下、説明のポイントをまとめてみましょう。

▽火山ガスについて

▽呼吸器や眼、のどなど粘膜を



刺激し、高濃度になると呼吸が苦しくなることがある。高感受性者は、喘息の発作を誘発したり症状が重くなることもあり、要注意警報レベルを超える高い濃度では、生命に関わる健康影響のリスクがある。予防対策で、リスクを最小限に抑えることができる。

▽火山ガス（二酸化硫黄）は、体内に蓄積することはない。

▽島へ帰るには、

次のことをクリアする必要があるあります。

▽長期的影響からみた二酸化硫黄濃度の目安を達成すること
▽安全確保対策を実施すること
▽リスクコミュニケーションにより住民自身が、火山ガスが長い期間に及ぼす健康影響と短期間のガス濃度上昇による健康影響（リスク）を受け入れ、帰島への合意形成をする。

▽引き寄せよう「三宅島」

「ガス濃度レベルと安全行動」には、ガスの濃度に応じて住民の取るべき行動が四段階に分けて具体的に決められているとの

説明に、島影がグリーンと近づいたような気がしました。今、誰にでもできること、それは火山ガスの説明会（リスクコミュニケーション）に参加すること。そしてリスクを正しく理解して、一日も早く合意形成を図り三宅島を手元に引き寄せようではありませんか。

熱中症に注意

猛暑の季節を迎え、特に気をつけなければならぬのは、熱中症。次のような症状は熱中症の危険信号です。

- ①吐き気がする
 - ②反応が鈍る
 - ③頭が痛い
 - ④言動がおかしい
 - ⑤呼吸が早い
 - ⑥脈が早く、弱い
 - ⑦唇がしびれる
 - ⑧めまいがある
 - ⑨筋肉の痛みとけいれんがある
- これらの症状は、大量の汗をかいて水分や塩分が失われた時に現れます。

予防対策

- ◎こまめに水分や塩分をとる
- ◎休憩は風通しのよい涼しい場所で
- ◎睡眠不足・疲労・深酒は大敵
- ◎できるだけ涼しい服装を

応急手当

▽衣服をゆるめ、木陰や風通しのよい場所に寝かせる。
▽ぬれたタオルで身体をふいて塩分や水分を補給する。
▽熱中症だと思ったら、救急車を呼ぶなどの措置をしよう。

月	区分	受託件数	就業延日人員	契約金額			計
				配分金	材料費	事務費	
5	公共	5	1,287	8,198,220	783,700	898,192	9,880,112
	民間	2	15	103,560	0	560	104,120
	計	7	1,302	8,301,780	783,700	898,752	9,984,232
累計	公共	10	2,305	14,843,420	1,126,199	1,596,962	17,566,581
	民間	4	42	265,260	0	560	265,820
	合計	14	2,347	15,108,680	1,126,199	1,597,522	17,832,401

★入会しました よろしく
高松照美 福本いよ子
筑波正生 宮田信之
木村惣一 井沢幸子
★退会しました
小笠原ミドリ
ご苦労さまでした

当センター事業	特別会員
2,347人	878人

正	誤
10,023	1,023

ミニ・ニュース6月号2面掲載の「当センターが受注した事業実績」表の就業延人員に誤りがありました。正しくは下記のとおりです。

今年もよろしく 情報連絡員



月1回の定例連絡員会議にて

社協では三宅村の委託を受け、十五年度も引き続き「情報連絡員配置事業」を実施しています。昨年度は二十八名の連絡員が電話や訪問により、ご高齢の方を中心に延べ一万二千二十件の声かけ・連絡活動を行いました。制度利用上の手続きや行政情報を分かりやすく伝えたり、身近な相談役として活動しています。また、皆さんの率直な要望も社協を通じて三宅村に

届けています。

介護など専門的なご相談についても社協を通じて、各機関におつなぎしていただきますので、お気軽にご相談下さい。今年度当初の連絡員は二十三名です。都外の避難者にも分担してご連絡をいたします。

【二十三区】

- | | |
|--------|-------|
| 浅沼美佐子 | 平澤 幸子 |
| 佐久間フヂエ | 鎌川 文子 |
| 山本喜美代 | 飯倉 則子 |
| 北川多恵子 | 竹本 光江 |
| 早川マス子 | 五十嵐文子 |
| 高田けさよ | 福澤ノリ子 |
| 【多摩地区】 | |
| 酒井 謙三 | 森下久美子 |
| 沖山 仙明 | 伊藤 智文 |
| 山田 利明 | 川口富貴子 |
| 高松 洋子 | 高松 淨子 |
| 吉澤 真紀 | 北川 由紀 |
| 【島しょ部】 | |
| 本多 恵美 | |

寄付金のお知らせ

(平成十四年十二月二日)
平成十五年六月十二日分
次の方々より、ご寄付を頂きました。ご厚志まことにありがとうございます。

- ◎一般
- 池田 良子様(伊豆) 金十万円。亡母・治代様のご香典の一部を。
- 曾我部富春様(伊豆) 金五万円。亡母・ヨシ様のご香典の一部を。
- 櫻田 静子様(伊ヶ谷) 金十万円。亡夫・雅様のご香典の一部を。
- 小林 和男様(坪田) 金十万円。亡父・孝三様のご香典の一部を。
- 木村 ウメ様(坪田) 金十万円。亡子・實男様のご香典の一部を。
- 福本彌太郎様(阿古) 金十万円。亡妻・久子様のご香典の一部を。
- 浅沼 掬吉様(坪田) 金十万円。亡母・さく様のご香典の一部を。
- 田中 三枝様(坪田) 金五万円。亡夫・俊吉様のご香典の一部を。
- 井ノ川健次様(阿古) 金十万円。亡母・千代様のご香典の一部を。
- 井口千佳子様(神着) 金五万円。亡夫・一秀様のご香典の一部を。
- 宮下 裕子様(阿古) 金十万円。亡夫・許育様のご香典の一部を。
- 匿名 金九千円。社会福祉の為に。山田美枝子様(伊ヶ谷) 金五万円。亡夫・孝夫様のご香典の一部を。
- 匿名 金一万円。社会福祉の為に。寺本 悌子様(阿古) 金十万円。亡夫・信道様のご香典の一部を。
- 匿名 金三万円。社会福祉の為に。大島 章様(阿古) 金五万円。亡妻・胡恵様のご香典の一部を。
- ◎災害支援活動のために 西荻ふくしネットワーク様 金三万円。
- 三宅島会様 金十万円。
- 三宅島第二回忘れお笑い大会実行委員会委員長 山本 峯章様 金十万円。
- 羽衣商店街振興組合様 金二万四千八百四円。
- 北澤 充様 金一万円。
- 帰宅難民の会神奈川県実行委員会様 金一万三百円。
- 浦和明の星幼稚園PTA マリアの会様 金一万円。
- 金目中学校区地域教育力ネットワーク協議会様 金七万円。
- 小笠原村社会福祉協議会様 金二万九千六百九十六円。
- 八王子高校生徒会様 金八千三百九十六円。
- ◎子ども達のために 都立農業高校定時制様 金九千七百七円。
- 北ノ山保育園様 金一万円。
- 三宅島チャリティコンサート川越実行委員会様 金二万四千五百九十八円。
- 鷗友学園女子中学校・高等学校様 金五万円。
- 調布星美幼稚園ボランティアサークル様 金一万八千八百四十五円。
- しぶやボランティアアサラダポウルアウト様 金四万六千四百七十円。
- 山科 威朗様 金二十万円。

四月十日付け退職
非常勤職員 北村淑子

三宅島 社協だより

第 117 号
平成15 (2003) 年 7 月 15 日 発行
発行 三宅島社会福祉協議会
会長 寺本 達
東京都新宿区神楽河岸1-1
☎ 03-3235-5730
FAX 03-5229-1651
ホームページ <http://www.miyakejima.com/syakyo/>

島の「コミュニティ」の力

会長 寺本 達

あの暑かった地震と灰まみれの夏から三年がたち、私たち三宅島民の避難生活は、ついに四年目が目前となりました。

この間、予想もしなかった沢山の人たちに、ありあまるご好意としてご支援を受けて参りましたことについて深く感謝いたしております。現在、避難先各地では三宅島民が地域の新しい力として活躍するようになりなりました。人のつながりと協力して物事を行うことを大切にしてきた島の人たちは避難先地域の人たちにも少なからず影響を与えていると思われまます。

また、この長期に及ぶ辛い避難生活を底支えしてきたのは、何よりも島の人のコミュニティの力であると考えております。広域分散避難のなか声を掛け合い、助けあい、励ましあい、慰

めあい、亡くなる方を惜しみ残された家族をいたわり、そして希望を捨てず三宅島民はじつと耐えてきました。目に見えないところで

脈々と息づく島のコミュニティの力、島の人の持つ力をあらためて強く感じています。今年三月には「三宅島火山ガスに関する検討会」の報告が出され、四月には滞在型帰島が開始されるなど帰島に向けての動きも増してきております。

どのような帰島になるのか、また帰れる日はいつになるのか、それらについてはまだ分かりませんが、一人一人が正しい情報を求め、家族でよく考えて落ち着いた行動をとることが大切と考えます。

人間の力ではどうしようもないこともあります。ですが、人の力で出来ること

第6回島民ふれあい集会が開かれました

五月十八日(日)港区立芝浦小学校・幼稚園で島民ふれあい集会が開かれました。神着地区の滞在帰島と重なったため島民の参加者数は今までより少なめでしたが、福祉車両の個別配車による参加は過去最多の三十四名でした。初めて福祉車両を使われた方が八名も

いつの日にか島の潮風の中で私たちの暮らしの再開ができる日に思いを馳せながら、なによりもご家族の心身の健康を第一に皆様がお過ごしくださいますことを念じております。



久しぶりの再会です。

あり、遠くは群馬県や小田原市からも参加されました。外泊や遠出が困難な方にとって、この集会がどれほど楽しみだったことでしょうか。「次はいつ？」と聞かれると・・・。ちよつと複雑な思いがします。

平成十四年度
三宅島社会福祉協議会事業報告

五月三十一日に開かれた評議員会で承認された平成十四年度の事業について概要を報告いたします。

会員・会費

住民の島外避難が継続しているため、会員の募集・会費の集金は行いませんでした。

調査・研究

介護保険・コミュニティワーク・成年後見制度・高齢者グループホームなどの研修や説明会に職員が延べ一七回参加しました。

また、避難者のいる区市町村の一五九社協へ支援状況の調査を行いました。

連絡・調整

管内外の各機関との連絡調整や情報交換のために役員が参加した会議等は延べ七五回。(内、福祉・介護や避難住民支援、帰島プロ

セスについて管内関係機関との連絡調整会議は延べ四九回)

避難先の社会福祉協議会やボランティアセンター、行政などの連絡調整をいたしました。また、災害関係の研修会やイベントへの講師派遣は十一件でした。

月一回の島民連絡会会議には役員が毎回参加しました。

広報・宣伝

三宅島社協だより一一五号・一一六号を発行し全世帯、管内関係機関、都内区市町村社協に配布。また、離職者支援資金三宅特例貸付などの情報を村広報同封にて全戸配布しました。

三宅島災害・東京ボランティア支援センター発行の

FAX通信「みやけの風」に社協関係情報を掲載しました。

児童福祉

七月と十二月の二回、図書券や玩具券を延べ一、一六名の児童・生徒・未就学児に送りました。

児童生徒、家族への招待イベントのコーディネートを行いました。

高校へ進学する中学三年生八名について塚田・大田奨学金支給を推薦しました。

高齢者福祉

電話及び訪問にて相談を受け付け、内容に応じて管内外の関係機関と連携して対応しました。

介護保険事業については、要介護認定訪問調査が延べ七四件。本会でのケアプラン作成は年度当初は一九名、年度末は一二名でした。

障害者福祉

災害前の地域デイサービス利用者などに訪問や面会

相談を行い、関係機関と連携して社会参加等を支援しました。

十一月には「三宅島ウォークインつくば」に障害者・家族4名が参加。また、ふれあい集会にて「出合いのテント」を設け、交流を行いました。

ボランティア活動

三宅島災害・東京ボランティア支援センターの構成団体として、センターの事業に協力しました。

第四回(四月二十一日)、第五回(十一月四日)の「三宅島島民ふれあい集会」を三宅島島民連絡会や三宅島災害・東京ボランティア支援センター、東京ボランティア・市民活動センターなどと共に開催しました。「三宅島ふれあいコール」への島民ボランティアの登録は述べ二五名、延べコール回数は一、二〇二件です。

三宅島会の支援イベントや児童・生徒支援のボランティア活動に協力しました。

委託事業

情報連絡員配置事業を三宅村から委託し実施。連絡員二八名が高齢者等に声かけ、情報提供・連絡活動を行いました。(電話三、七四六件、訪問三、四九一件、その他四、七八三件)

東京都社会福祉協議会からの委託を受け、離職者支援資金三宅特例貸付などの生活福祉資金貸付を行いました。

更生援護

役員が延べ二十二名の施設入所者に訪問見舞いをしました。

年度末に一人親家庭等の未就学児、小中学生(計三十名)に玩具券、図書券を送りました。

その他

歳末たすけあい募金、赤い羽根共同募金及び収益事業は避難中のため実施しませんでした。

北区での支援活動を振り返って

ボランティア・市民活動センターきた(北区社会福祉協議会) センター長 小原宗二

三宅島の皆さんが全島避難によって、それまでおおよそ縁の無かった北区にいられてから、もうすぐ三年が経とうとしています。

当時、北区北部の赤羽にほど近い都営桐ヶ丘団地一帯に約二百名の方が緊急に避難されて来られるという知らせを受けたものの、当時の北区社協は災害支援の準備というものが全くできていませんでした。昭和六十一年に伊豆大島噴火災害で全島避難が行われた際に、約二百名の大島島民を北区内の防災センターや体育館などに約一ヶ月間受け入れた経験はあるものの、このような大規模で長期間にわたる災害の被災者が避難して来られるという経験は初めてのものでした。

そこで北区社協では、阪神大震災や伊豆大島噴火災害の支援記録を参考に「災害ボランティアセンター」を設置し、生活物資の募集や提供、緊急援護金の支給

桐ヶ丘地区の地域団体、関係機関との連絡組織づくりなどを実施しました。

北区の行政も桐ヶ丘出張所に相談窓口を開設し、小学校転入児童に対して学用品・体操着等の支給、被災者救援物資集積所として休園中の幼稚園の提供、保健婦による個別訪問、被災世帯に対する商品券の配付などを実施しました。



桐ヶ丘三宅島ボランティア会設立総会2000年9月16日

しかし今回の避難生活は、学校や体育館での避難所暮らしと違い、世帯ごとに都営住宅一戸が割り当てられ

たため、プライバシーや生活のリズムを自分で守ることができ、安心して生活できるといい点がある反面、必要な情報が行き届かないなどの不安を抱える人たちが孤立してしまうのではないかと課題が当初から指摘されていました。

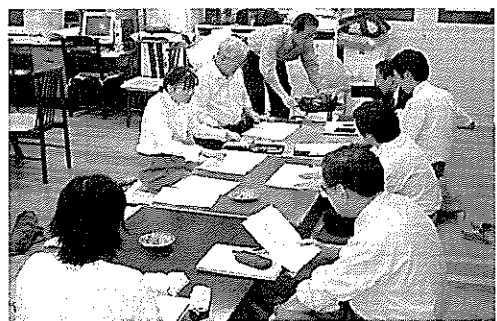
そこで桐ヶ丘地区に避難された三宅島の方は、お互いの安否確認や助け合いをすすめる中で、地域から集まった緊急援助物資の管理・分配や必要な情報の伝達等も自主的に行い、「助けられるばかりではなく、自分達でできることはお互いにボランティアで助け合っていこう」との意味から、「桐ヶ丘三宅島ボランティア会」の名称で連絡会を設立し、現在も島民間の情報伝達や交流、地元や行政等との連絡窓口として活動が行われています。

被災者をめぐる課題は、被災直後の緊急援助的な課題から日常生活の課題(仕事、家事、教育、介護等)へ変化し、支援を必要とする課題も世帯や個人ごとの個性が強くなり、ややもするとだれからも気づかれ

ずに問題が見落されてしまうのではないかとということが心配されています。

北区ではこの三年間、北区社協が呼びかけ人となり毎月一回「三宅島三者会議」を開催しています。当事者である桐ヶ丘三宅島ボランティア会と北区社協、北区(防災課、地域振興室、赤羽福祉サービス係、桐ヶ丘児童館)が合同で情報を持ち寄り、島民や島の状況について各機関が情報や課題を共有し、対応が必要な場合には縦割り課題が埋まらないように連携して対処しています。最近では、一時帰島での島や島民の皆さんの様子、子どもたちの進捗などの状況、三宅島島民連絡会の活動への協力、地域行事や健康診断などについて情報提供や情報交換が行われています。

また、三ヶ月に一回、北区赤羽福祉サービス事務所において、三宅村保健福祉課、三宅島社協、北区(防災課、保健所、福祉係)、北区社協、桐ヶ丘や浮間地区の在宅介護支援センターが「三宅島関連地域ケア会議」を行っています。



三宅島三者会議

地元の児童館では「三宅島ブランド」と称して火山灰を染料に利用したコースターづくりを子どもたちのボランティア活動として行ったり、海のエコロジー教室の講師を島の方にお願いしたりと三宅島の皆さんが来てくださったことで新しい交流も生まれてきています。

避難というかたちで来ていただいた北区ですが、地元地域も三宅島の皆さんから元気をいただいています。三年にわたる避難生活で、皆さんが元気に帰島できることを心から願っています。

自主活動紹介のページ

各地で行われている島民の活動を紹介して頂きました

府中市押し花教室

府中市には八幡町、南町、武蔵台の三箇所の団地を中心に約七十名の島民が避難しています。行事や集まりのあるときは皆で連絡を取り合っており合っています。その中の自主的なサークル活動として毎月第一、第三水曜日の午後「押し花教室」を行っています。



押し花教室は、楽しいひと時です。

講師の先生は府中市在住のボランティアの方で場所は府中市社会福祉協議会の会議室を提供していただいています。そこで作品を作ったり、お喋りしたり楽しくほのぼのと活動しています。普段の活動だけでなく、作品をふれあい集会に出したり、府中市生涯学習センターをお借りして作品展を行ったりしました。作品の題材には三宅島の風景やアカッコ、イルカなど島ならではのものを使っています。作品を見て下さった多くの方々に喜んでいただき、また励ましの言葉もいただきました。私たちの励みになりました。その他にも、府中三宅島会でゆめ農園の見学に行った折には押し花の先生にも参加していただいたので、農園でちょっとした押し花の体験会をして農園の方たちに押し花の楽しさを紹介してきました。押し花は、四季の移り変わりや自然の

「アカッコ」の羽ばたき

草、木、花に目が行きつきかけになり毎日に潤いを与えてくれます。花を見る楽しみ、散歩する楽しみ、作品を作って誰かに見せる楽しみなど多くの楽しみも出ますし、何しろ自然のものには心を癒されます。ですから、興味のある方は是非一度足をお運び下さい。思った以上に楽しいですよ。(府中市 吉澤 真紀)

日曜日の朝、山中小学校のランチルームに賑やかな声が響き渡ると、三宅島島民合唱団「アカッコ」の練習が始まります。指導者は日本有数の指揮者である山本郁夫先生です。コーラスの練習はいつも先生の興味深いお話から、リラックステイム、発声練習へとつながっていきます。先生は「アカッコ」には都会のコーラスには無い力強さと迫力がある。そこがいいん

だ。」と、黒潮の荒波で育てられた声に誉め言葉を下さいますが、あまりの勢いに「歌の心」を忘れて指摘を受けることも度々です。難しい外国語の歌に拒否反応を示していた私たちが、先生の手導に導により知らぬ間に全員が数カ国語の歌を歌えるようになりました。



5月4日 アプリコにて

今年三月、品川区と神戸市で行われたヘンデル作曲「メサイア」公演の大舞台に私たちも参加させていただきました。五月四日には大田区のアプリコにおいて、「アカッコ」独自の公演会も開きました。来年は、モーツアルト作曲「レクイエム」の演奏会に「アカッコ」は参加します。

次から次へと出てくる山本先生の構想や舞台公演の計画に目を丸くしているのですが、それを実現してしまっただけを感じながら楽しく練習をしております。活動は一年三ヶ月になります。活

歌の好きな皆さん、練習風景を見てみたい皆さん、一度大井町の山中小学校へいらして「アカッコ」の羽ばたきを見てみませんか？お待ちしております。(品川区 北川 多恵子) ※練習日のお問い合わせは、〇三―三二九八―五一五九/東京ルネサンス倶楽部まで。

平成十四年度 三宅島社会福祉協議会決算報告

五月三十一日に開かれた評議員会で可決・承認された平成十四年度の決算について報告いたします。

一般会計

当初予算七千二百三十九万八千円に対して百六十一万九千円の減額補正を行い、最終予算額は七千七百七十九千円でした。

補正内容の主なものは、寄付金収入や事業費、運営資金積立金特別会計繰入金によるものです。

◎会費については、避難後に受領した十二年度の伊ヶ谷地区分を補正したものです。十四年度は会費の集金は行っておりません。

特別会計

◎運営資金、退職給与引当金、ボランティア基金の各会計に一般会計から繰入を行いました。

◎歳末たすけあい運動は避難のため実施いたしませんでした。

◎運営資金積立金からの一般会計への繰り出しは行いませんでした。

◎島内における介護用品の斡旋や販売のための老人福祉基金会計は、平成十四年度の実績はありません。

平成14年度決算報告 支出総額

収入総額 113,820,877円
支出総額 65,520,326円
期末残額 48,300,551円

一般会計 (単位:円)		特別会計 (単位:円)	
収入総額	70,880,630	①歳末たすけあい事業収入額計	0
会費	13,000	募入金	0
一般寄付金	2,887,774	繰入金	0
指定寄付金	359,410	利息	0
三宅村補助金	34,434,000	②たすけあい資金貸付事業収入額計	1,593,457
東京都社会福祉協議会補助金	175,720	償還金	100,000
三宅村介護保険認定調査委託金	310,800	寄付金	0
三宅村情報連絡員配置事業委託金	19,600,000	利息	530
東社協生活福祉資金事務委託金	203,000	前年度繰越金	1,492,927
介護保険収入	1,514,299	③退職給与引当金収入額計	18,169,857
共同募金配分金	268,000	一般会計から繰入	3,000,000
利息	437,557	利息	2,700
雑収入	1,450	前年度繰越金	15,167,157
前年度繰越金	10,675,620	④運営資金積立金収入額計	18,077,798
支出総額	65,320,326	一般会計から繰入	3,000,000
組織運営費	487,505	利息	3,820
事務費	2,573,192	前年度繰越金	15,073,978
職員給与等	30,477,972	⑤老人福祉基金収入額計	1,679,642
調査研究・企画費	179,348	寄付金	0
連絡調整費	597,140	利息	689
普及宣伝費	347,070	前年度繰越金	1,678,953
児童・生徒等支援	2,258,169	⑥収益事業収入額計	0
高齢者福祉費	87,009	事業収入	0
障害者福祉費	269,796	利息	0
更生援護費	94,200	前年度繰越金	0
心配事相談事業費	0	⑦ボランティア基金収入額計	3,419,493
ボランティアセンター事業費	56,350	一般会計から繰入	2,000,000
生活福祉資金貸付事業費	252,783	利息	567
情報連絡員配置事業費	19,599,792	前年度繰越金	1,418,926
退職給与引当金積立	3,000,000		
運営資金積立	3,000,000		
ボランティア基金積立	2,000,000		
固定資産取得費	0		
返還金	0		
雑支出	20,000		
予備費	0		
差引残高	5,560,304		

平成十五年度
三宅島社会福祉協議会事業計画
三月三十日に開かれた評議員会で承認された平成十五年度事業計画の概要について報告いたします。

事業方針

地域福祉推進の中心的役割を担う民間団体として、被災により各地に分散して避難生活を送る住民の要求の把握に努め社会福祉協議会がもつ諸機能と島内及び避難先の機関・諸団体との連携・協力によりその支援活動を行います。

事業内容

◆ 調査研究
避難生活を送る住民の生活実態や要望について必要な調査・研究をします。他の被災地やボランティア活動との交流を深めその経験に学びます。

◆ 広報・普及活動
「三宅島社協だより」の発行体制を強化します。

◆ 障害者福祉
相談援助活動を行うと共に、障害者関係団体等と協力して交流行事を行います。

◆ 緊急支援
一時的な生活困窮者へ小口資金の貸付を行います。

◆ その他
歳末たすけあい事業、老人福祉基金事業、収益事業及び会員募集・会費の集金を行います。

重点目標

社会福祉協議会のネットワークを生かし、住民の避難先の社協やボランティアセンターとの連携に努め、支援活動を行います。

◆ 連絡・調整
島内各機関・団体及び住民の避難先の社協、ボランティアセンター、介護保険事業所などの連絡連携・協議に努めます。

◆ 高年齢者福祉
分散避難している高齢者への相談援助活動を行います。

◆ 障害者福祉
相談援助活動を行うと共に、障害者関係団体等と協力して交流行事を行います。

◆ その他
歳末たすけあい事業、老人福祉基金事業、収益事業及び会員募集・会費の集金を行います。

◆ 児童福祉
三宅島教育委員会、三宅村立小中学校などと情報交換・協力を努め、児童・生徒に対する支援活動を行います。

平成十五年度
三宅島社会福祉協議会予算概要
三月三十日に開かれた評議員会で可決・承認された平成十五年度予算の概要を報告いたします。

一般会計

◎ 会員募集・会費の徴収については帰島の目処が立つまで行いません。

◎ 子供たちに対する指定寄付は、図書券などの発送にかえて子供たちに届けます。

◎ 三宅島の委託を受け情報連絡員配置事業を行います。今年度当初は連絡員二十三名でのスタートとなりました。

◎ 心配ごと相談事業の経費計上は補助金打ち切りのため科目存置のみとなっていますが、民生委員の活動は前年度同様行われます。

特別会計

◎ 歳末たすけあい事業については、避難中であるため十五年度の実施は予定していません。

◎ 島内での清涼飲料水販売を行う収益事業及び島内での介護用品の斡旋や販売を行う老人福祉基金会計は、帰島後の事業再開までは休止します。

◎ 十五年度は運営資金積立金より一般会計への繰入は行いません。

◎ 退職給与引当金への積立を行います。

平成15年度予算概要

収入総額 108,205 (単位:千円)
支出総額 108,205

一 般 会 計		特 別 会 計	
収入総額	62,161	①歳末たすけあい事業収入額計	0
会費	0	収入	0
一般寄付金	2,500	募礼金	0
指定寄付金	500	利息	0
三宅島補助金	32,071	②たすけあい資金貸付事業収入額計	2,103
東京都社会福祉協議会補助金	173	収入	500
社会福祉団体補助金	1	償還金	1
三宅島介護保険認定調査委託金	294	寄付金	2
三宅島訪問介護委託金	1	利息	2
三宅島情報連絡員配置事業委託金	19,600	前年度繰越金	1,600
外出支援サービス委託金	1	③退職給与引当金収入額計	20,720
東社協生活福祉基金事務委託金	203	収入	2,500
介護保険収入	1,440	一般会計から繰入	20
共同募金配分金	270	利息	20
繰入金	3	前年度繰越金	18,200
雑収入	102	④運営資金積立金収入額計	18,116
前年度繰越金	5,000	収入	1
支出総額	62,161	一般会計から繰入	15
組織運営費	680	利息	18,100
事務費	2,885	⑤老人福祉基金収入額計	1,679
職員給与等	31,354	収入	0
調査研究・企画費	300	寄付金	0
連絡調整費	850	利息	0
普及宣伝費	651	前年度繰越金	1,679
助成事業費	50	⑥収益事業収入額計	0
児童福祉	1,500	収入	0
高齢者福祉	200	事業収入	0
障害者福祉	300	利息	0
母子婦人福祉	150	前年度繰越金	0
更生支援費	50	⑦ボランティア基金収入額計	3,426
緊急援助費	100	収入	1
心配事相談所事業費	1	一般会計から繰入	1
ボランティアセンター事業費	200	寄付金	1
生活福祉資金貸付事業費	260	利息等	2
情報連絡員設置事業費	19,600	前年度繰越金	3,422
退職給与引当金積立	2,500	支出総額計	3,426
運営資金積立	1	支出	1
ボランティア基金積立	1	一般会計への繰入	3,425
固定資産取得費	1	支出	0
返還金	1	事業費	0
雑支出	30	次年度への繰越	0
前年度への繰越	1		
予備費	495		